

## 8. 遠隔医療と”cost”: 文献計量学的検討

研究分担者 中山健夫 京都大学大学院医学研究科健康情報学分野 教授

### 研究要旨

近年、医薬品医療機器の評価に関して費用対効果の視点が強調されている。しかし遠隔医療”telemedicine”の領域で費用または費用対効果について程度言及されているかは不明である。本年は文献計量学的手法で2000年から2019年にかけて”telemedicine”をテーマとする論文における”cost”へ言及する論文割合の増加が示されたが、近年ではやや頭打ちの傾向がみられた。

### A. 研究目的

医薬品医療機器の評価に関して費用対効果の視点が強調されている。しかし遠隔医療”telemedicine”の領域で費用または費用対効果についてどの程度言及されているかは不明である。

遠隔医療”telemedicine”をテーマとする論文において”cost”に言及した論文の割合の経時的な変化を明らかにする目的で本研究を実施した。

### B. 研究方法

PubMedを用いた文献計量学。検索用語として(telemedicine OR telehealth), cost または cost-effective\*, いずれも MeSH 指定せず、フリーワードとして用いた。ランダム化比較試験に限定する際には filter 機能を用いた。

### C. 研究結果

2000年～2019年の”telemedicine”をテーマとする論文、cost または cost-effective (cost-effectiveness 含む)に言及のある論文の経年変化を表と図に示す。

### D. 考察 & E. 結論

”telemedicine”をテーマとする論文の内、cost に言及のある論文の割合は2000年以降15～20%で推移しており、近年では微減している。cost-effective に関しては、同時期に3～6%で推移しており、明らかな増減は見られない。

以上より、世界的には”telemedicine”領域におけるcostの研究は量的にはプラトー状態であることがうかがえる。今後、日本における”telemedicine”領域におけるcostの議論を進めるに当たり、国際的な動向と現在までの蓄積を踏まえた上で、日本独自の状況を考察する必要がある。

year	total	cost	%	cost-effective*	%
2019	2986	447	15.0%	140	4.7%
2018	3037	516	17.0%	173	5.7%
2017	2799	465	16.6%	168	6.0%
2016	2524	402	15.9%	118	4.7%
2015	2445	437	17.9%	138	5.6%
2014	1877	326	17.4%	103	5.5%
2013	1774	315	17.8%	106	6.0%
2012	1539	253	16.4%	70	4.5%
2011	1279	228	17.8%	65	5.1%
2010	1072	192	17.9%	46	4.3%
2009	1007	171	17.0%	38	3.8%
2008	1043	172	16.5%	41	3.9%
2007	910	157	17.3%	32	3.5%
2006	885	161	18.2%	38	4.3%
2005	834	154	18.5%	40	4.8%
2004	841	158	18.8%	41	4.9%
2003	779	131	16.8%	23	3.0%
2002	739	165	22.3%	32	4.3%
2001	732	173	23.6%	33	4.5%
2000	828	158	19.1%	33	4.0%

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

Murase K, Tanizawa K, Minami T, Matsumoto T, Tachikawa R, Takahashi N, Tsuda T, Toyama Y, Ohi M, Akahoshi T, Tomita Y, Narui K, Nakamura H, Ohdaira T, Yoshimine H, Tsuboi T, Yamashiro Y, Ando S, Kasai T, Kita H, Tatsumi K, Burioka N, Tomii K, Kondoh Y, Takeyama H, Handa T, Hamada S, Oga T, Nakayama T, Sakamaki T, Morita S, Kuroda T, Hirai T, Chin K. A Randomized Controlled Trial of Telemedicine for Long-Term Sleep Apnea Continuous Positive Airway Pressure Management. *Ann Am Thorac Soc.* 2020 Mar;17(3):329-337.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

